

議会議案第6号

家庭系ごみの戸別収集・有料化全市実施の計画を見合わせることを求めることに関する決議について

家庭系ごみの戸別収集・有料化全市実施の計画を見合わせることを求めることに関し、次のとおり決議する。

平成25年10月2日提出

提出者	鎌倉市議会議員	三宅真里
同	同	上納所輝次
同	同	上前川綾子
同	同	上吉岡和江
同	同	上中澤克之
賛成者	同	上竹田ゆかり
同	同	上松中健治

議会議案第6号

家庭系ごみの戸別収集・有料化全市実施の計画を見合わせることを求めることに関する決議について

家庭系ごみの戸別収集・有料化全市実施の計画を見合わせることを求めることに関し、次のとおり決議する。

平成25年10月2日提出

提出者	鎌倉市議会議員	三宅真里
同	同	上納所輝次
同	同	上前川綾子
同	同	上吉岡和江
同	同	上中澤克之
賛成者	同	上竹田ゆかり
同	同	上松中健治

## 家庭系ごみの戸別収集・有料化全市実施の計画を見合わせることを求めることに関する決議

現在、鎌倉市では平成26年7月から家庭系ごみの戸別収集・有料化を実施すべく市内各地で説明会を実施している。

その理由は、鎌倉市のリサイクル率は全国トップレベルの水準であっても、一人当たりのごみ排出量は、県下の中でもまだ多く、今後も発生抑制・再使用に取り組み、環境負荷の低減やごみ処理経費の削減が重要であること、一方、今泉クリーンセンターは平成27年3月末で焼却を停止することから、平成23年6月に「ごみ処理基本計画」を見直し、減量に取り組んだ結果、ごみ焼却量は平成24年度末には約4万トンから約3万8,000トンまで減量したが、名越クリーンセンターで焼却可能な3万トン以下にするにはあと8,000トンの減量が必要であることもあり、平成26年7月から戸別収集・有料化を導入するというものである。そして有料化については、ごみを減らそうという意識が働き、戸別収集については、ごみの排出者責任を明確にすることでごみ減量が確実なものとなり、クリーンステーション周辺の美化や、高齢者や子育て世帯のごみ出しの負担軽減につながるものとしている。

しかし、市の説明によれば、クリーンステーションでの回収を望む自治・町内会があるため、選択制が可能かどうかを検討しようとしているとのことで、指定収集袋を使わず排出者が特定されない違法ごみをなくそうという戸別収集の意義を鎌倉市自身が早くも崩そうとしている。

また戸別収集・有料化による経費については、クリーンステーション収集から戸別収集に切りかえた場合の経費5億2,000万円と有料化による歳入等4億4,800万円の差額で、年間約7,000万円の費用の増加で済むとしているが、戸別収集にかかる経費も有料化による歳入も、いずれも市民が支払う税金や負担金によるものである。

ごみの戸別収集・有料化はごみ減量化にはある程度の効果も考えられるが、かなりの市民の努力がなければ、目標とする8,000トンのうちの3,500トンの減量を達成することはできない。

ところが市長は、市民への説明会を開催している一方、本年8月20日、生活環境整備審議会に対して鎌倉市ごみ焼却施設基本計画の策定について、新たな焼却施設の建設についての諮問を行った。さらには8月22日、鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会に対して鎌倉市の最適な資源化のあり方について諮問を行った。特に鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会に対しては、これ

までのマテリアルリサイクルに加えて、焼却の際に発生する熱エネルギーを回収・利用するサーマルリサイクルの視点からも検討していくことが必要として諮問している。仮にサーマルリサイクル方式を採用した場合、大量の焼却物を確保しなければ効率的なエネルギー回収は困難で、市民によるごみの分別が無駄になる可能性が高く、分別の徹底によるごみ減量を呼びかけているこれまでの市の姿勢とも矛盾する。

鎌倉市は平成25年12月定例会において、家庭系ごみの戸別収集・有料化実施に係る条例改正を準備しているとのことであるが、このような状況の中で、市民に対し家庭系ごみの戸別収集・有料化を求めることは、大きな混乱と不信を招く事態になることは明らかである。

よって、鎌倉市議会は、新焼却炉建設用地選定と焼却方式の見通しも決まらない現段階での家庭系ごみの戸別収集・有料化は実施すべきでないことを鎌倉市に強く求めるものである。

以上、決議する。

平成25年10月3日

鎌 倉 市 議 会